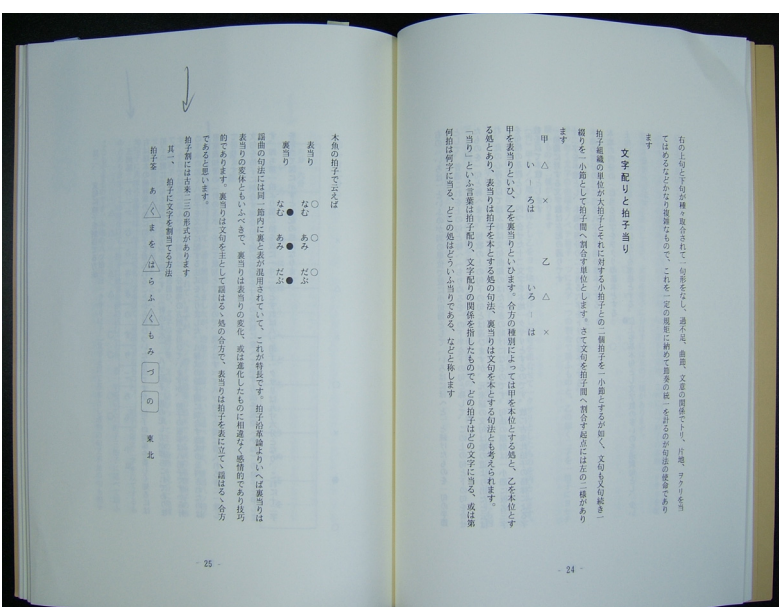
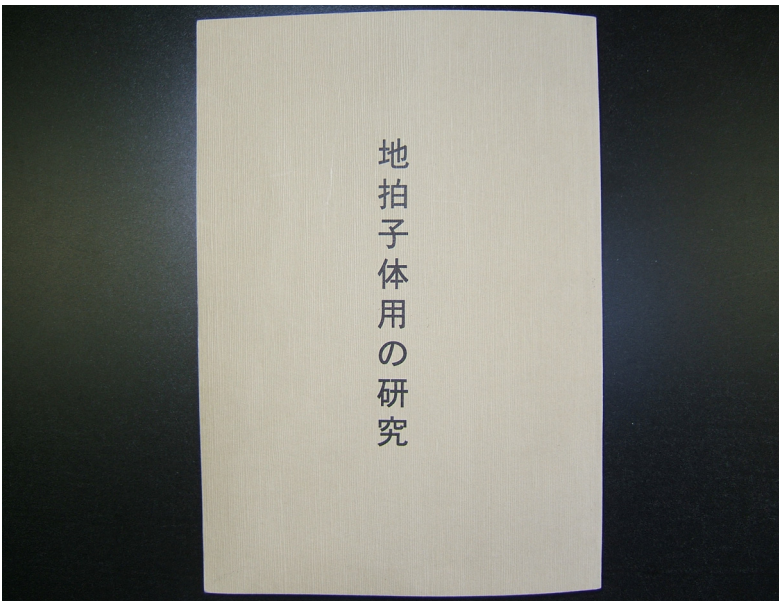


下田雄三 『地拍子体用の研究』

岩井派の能楽師、下田益三の遺稿集。「体用」の考え方に基づき、山崎楽堂の地拍子論を徹底批判した。本書でも「余り用の模写に偏すると遂にその本体を失ふ」と述べ、基本姿勢を貫く。本書は『軒の玉水』等の江戸期地拍子解説書に依拠しつつ、拍子の基本をノベ（奇数拍につく）・ヨセ（偶数拍につく）等の概念をまじえつつ説明する。習ひの拍子、七拍子、三拍子、ヤタの間等の説明等もあり、簡潔ながら守備範囲が広い。小歌、念仏、当ルヤヲハ五文字句を類似とみなす視点も新鮮。他にも優れた論文多数。



標題 内題：―

標題紙：地拍子体用の研究

奥 附：地拍子体用の研究

その他：地拍子体用の研究（表紙、背）

著者 奥 附：下田雄三

その他の場所：下田雄三（序）

出版 版 次：第一版

出版地：大阪府豊中市

出版社：下田雄三

出版年：平成6（1994）

その他の場所：序 平成5（1993）

形態 冊 数：一冊 頁 数：七六頁

寸 法：26×18（cm）

状態 写本版本の別：版本 現物複写の別：現物

備考 下田益三遺稿（序）。橋岡慈観序。